

福山市 青少年センターだより

2019年度 第3号

福山市青少年センター
福山市西町1-1-1 エフピコRiM 地下2階
(青少年・女性活躍推進課内)
TEL 084-928-1046
FAX 084-927-9121
seishounen-josei@city.fukuyama.hiroshima.jp

ブロック別研修会 まとめ

「子供・若者育成支援強調月間」である11月を中心に、各ブロックで研修会を開催しました。

中部・東部 青少年をスマホトラブルから守るため、スマホの適切な利用について学びました。

11/5



フィルタリングで子どもを守る
ネット上の出会い ⇔ あんしんフィルター
個人情報 ⇔ ウイルス対策アプリ
ながらスマホ ⇔ 歩きスマホ注意アプリ

《参加者の声》

- ◆ ネット依存の病気認定に驚いた。
- ◆ 完全な安心なんてない。
親子で話し合うことが大切。



西部

11/26

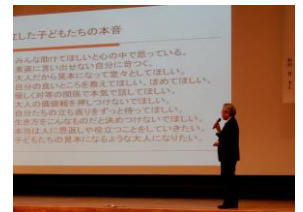
地域で子どもを見守り、育てていくためには・・・。
子ども達の挫折と自立までの実話を基にお話しくれました。

自立を見守る4K
気づく、気配り
傾聴、声かけ

大人に求められること
温かい声かけ
大人がモデルになる
大人たちが支えあう姿
→ 子どもたちが安心する

《参加者の声》

- ◆ 大人が変われば子どもが変わる。
信頼される大人の大切さを感じた。
- ◆ 人と人とのつながりがいかに大切か、
考えさせられた。



北部

10/25

「児童虐待の現状や防止」について、福山市ネウボラ推進課2名にご講演いただきました。

フィンランド語で「アドバイスの場」。
総合的な子育て支援制度。

児童虐待はなぜ起こるのか



要因が複合した際に虐待が発生

★ 福山市の相談・通告受付数（昨年度）
…470件（心理的、身体的虐待が多数）
★ 「もしかしたら…」でも構いません。
虐待を疑ったら、迷わず通告を！

《参加者の声》

- ◆ 児童相談所全国共通ダイヤル「189(いちはやく)」覚ええました。
- ◆ 子どもと保護者のSOSに気づけるよう取組みたい。



青少年を有害図書から守る！白ポスト設置事業

有害図書を回収する目的で設置されている箱、「白ポスト」。
福山市では28小学校区に設置しており、学区青少年育成協議会の管理のもとに効果を上げています。青少年センターでは白ポスト内の有害図書の回収・廃棄業務を行っております。
今後とも環境浄化へご協力をよろしくお願いします。

有害図書を
投入してね！



| | |
|--------|--------|
| 2015年度 | 2,268冊 |
| 2016年度 | 1,854冊 |
| 2017年度 | 2,087冊 |
| 2018年度 | 1,419冊 |

白ポスト回収状況

～毎月17日は「青少年の日」 毎月第3日曜日は「家庭の日」～

指導員の窓



当センターに勤務して早15年が経ちました。当初は福山駅周辺を中心に活動し、声かけをする対象の多くが高校生でした。遅刻・怠学・喫煙の補導件数は年間3,000件を超えていましたが、現在では、生徒指導の充実の徹底が成果へ繋がり、高校生への声かけはかなり減少しています。

一方で社会問題にもなっている非行の低年齢化に加え、児童生徒が無料通話アプリやオンラインゲームなどの長時間利用による「ネット依存」、ネット詐欺や不正請求などの「ネット被害」、SNSによるトラブルなど、情報化の進展に伴う新たな問題も生じています。

実際、学校に定着できない中学生が、SNSを通じて希薄なコミュニティを形成し、市内の商業施設に集まっては喫煙、飲食後のゴミを散らかす迷惑行為や駐車場などでスケートボードを乗る危険行為を繰り返す事案も発生しており、危惧しているところです。こういった問題行動を発見した場合は、直接注意をした上で各関係機関へも情報提供をして早期発見～解決に向かうように努めています。

しかし、未だこの情報化に伴う諸問題への対応に追いつけていないのも現状です。ネット依存から不登校、ひきこもりに繋がり追い込まれるケースも少なくありません。皆様の地域でも子どもたちの言動や行動に気になるところを見かけられた際は、声を上げていただくことが早期解決への一歩となります。

社会的孤立が深刻化しているこの日本社会で、子どもたちが周囲の人々から見守られ、人と人との繋がりの中で成長していく社会であってほしいと強く思っています。（田坂）

中央青少年育成員のコーナー

青少年育成員（旧補導員）協議会に携わって35年になり、当時は問題行動を起こす子どもが多く（茶髪・服装の乱れ・喫煙・中学生の自殺予告など）小・中学校区の巡視を活動の場としていました。



ある時、中学生のグループの中に駆け込んで、ある場所を尋ねたら、詳しく教えてくれたので、「おばちゃん助かったわぁー。どうもありがとう。」とお礼を言って立ち去ろうとした時、そのグループの一人が「わしらでも褒められることがあるんじゃないの。」と背後から聞こえてきました。ああ、この子たちは、学校でも、家・地域でも蔑視されて寂しい思いをしているのではないかと・・・。

また、暴走族のグループと一緒に公共の場のトイレ掃除をする機会がありました。ピカピカに磨いたトイレに感動し、「今まで自分が楽しいと思うことばかりしてきた。このトイレを使う皆が喜んでくれると思ったら（他人が喜んでくれる）こんな感動を味わったのは初めてです。」と。この時、少年たちの持っているやさしい内面の声を聞いたような気がしました。



この様な現場での経験から、青少年を補導するのではなく、育成するという立場での声かけを大切にしていきたいです。（吉岡）

編集後記

人との関わりや周りに起こった出来事が、行動するきっかけになることは多いです。中には悪影響と呼ばれる良くないきっかけもありますが、そのきっかけをもとにどう行動するかは自分自身です。色んなことに影響されやすい時期の子どもたちが、後悔しない行動をできるように、私たち周りの大人が気に掛けることが大切です。（南）

